

清川 00:36

令和六年度の奈良先端大同窓会総会を始めたいと思います。私、会長の清川と申します。よろしく願いいたします。で改めまして、あのお集まりいただきありがとうございます。

ええとお手元に資料があるかと思えます。左上ホチキス止めのやや分厚い資料ですけれども、議題に従って進行していきます。まず、前回総会の議事要旨、議題の二番ですけれども、ええございますので、えっとそちらの方はええとそうですね。資料の方をご覧いただいてもし何かお気づきの点がありましたら総会の終了までにお知らせください。

続きまして、三番審議事項四項目ありますが、順番に報告させていただきます。まず、あの決算についてということで、本来、会計担当の小林副会長の担当なんですけれども、本日ご欠席ですのであの岡村理事の方から報告いただきます。

岡村 01:33

はい小林に代わりまして岡村から報告させていただきます。昨年度の収支報告書資料二をご覧ください。収入支出と書いているんですけれども、収入の方は新規で六名分、南都銀行で郵貯の方に261名分で。合わせてそれぞれ120,009円と522万円の新規の収入。それと両銀行の繰越金合わせて19,270,655円。で全て合わせて24,610,660円となっております。で支出の方ですけれども、一個一個行かないんですけれども、主な支出がまず名簿のパルサインの使用料が323,400円で会合の補助やあとはズーム月額使用料。とか？あともう一つ大きいものとして、学位記のフォルダー作成費用が577,500円あとまあ、振込の手数料とかが諸々ありまして、それで支出の総額が1,281,596円となっております。で、最終的に現在の金額残額は23,329,068円となってそれぞれすべて証票ついていますので、資料の方いただいております。はい、以上です。はい。

清川 03:27

ありがとうございます。こちらの決算まず会計監査について何かご質問等あるでしょうか？大丈夫でしょうか？また、後ほどでもいつでも割り込んでいただいて結構です。

えっと、そうしましたらですね。三番審議事項の、三項目目ですね。活動計画についてというところに関しまして資料四を清川の方から説明させていただきます。まずですね。活動計画来年度令和七年度の予算案が項目一に挙げられております。で、毎年この予算案の考え方はですね、決してマイナスにしない、大事な会費をしっかりと使うということで、えっとすでに決算が終わっている前年度ええ、今回の場合ですとして、令和五年度昨年度のええ収入ええをもとにしまして、こちらよりもええ必ず少ないええ同額もしくは少ない形で支出計画を立てております。でえっと収入に関しまして、先ほど報告ありました通り、ええ534万ええ少々ということになっています。

で支出に関しまして、上の方からざっくりご説明しますけれども、ええまずあのええええ会員管理のウェブサイトですね。パルサインの利用料ええ人数が増えましたので、えっとこの今年よりも月額単価が増えてますけれども、ざっと40万円です。ええ、それからええ南都銀行のええウェブバンキング。それから事務員雇用を同窓会としてしようという話が上がってまして、えっと、ちょっとまだあのなかなか動けてないんですけれども、項目としては残っていて、まあリマインドということで、ええいつかやりたいねということで、ここにあのゼロ円として記載しております。

それから先ほどありましたように、あの額としては毎年多いあの多い額になってるんですが、あの修士博士の学位記の方に、あの綺麗なバインダーを寄贈させていただいて、同窓会寄贈と記入したのがあります。ええ、こちらの方が70万円少々になっています。それからえっと同窓会主催のイベント飲食ホームカミングデイ。本日もそうですけども、こちら来年もええ15万ぐらいにええ計上しています。それからええ同窓会主催のイベントの講師謝金ええこれ、なかなか実際、あの同窓会主催でのイベントとして、あの実際えっと消費消化できてないんですけれども、ええ3万円かける三名という形で計上しています。

それからあの同窓会の開催支援費ですね。研究室単位領域単位等々様々なええまあ、あの同窓会があると思うんですが、そちらの方のええまあ、金銭的な支援ということでええ、2000円かける50名ですね、ええ最大10万円のサポートするということで、ええと後ほど紹介しますが、タイのあの同窓会支部が立ち上がって、まあ、今年もかなり人数が来てましたが、それが毎年あのありそうだとということで、ええ、昨年よりも1件増やしたのと、まああのコロナも明けましたのもう少し増やしていきたいということで、昨年5件の計画からええ、来年に関しましてはええ、7件に増やしています。ええ、それからええ。もう少し小規模な5万円規模のものはええ、同数十万ええ10件程度を見込んでいるということです。

その次の海外支部活動支援費に関してはええまあ、長年しっかり活動しているといくつかのそのルールがありまして、内規がありまして、それに従ってこれを満たしている。まあ、インドネシアだけなんですけど、今のところはええこれに関して好きに使っていいという支援費を5万円お渡ししています。

それからえっと新入生の歓迎会ということであのまあ、研究室単位でこう縦のつながりはまあそこそこできているんですけれども、横のつながりが薄いということで、まあNAISTへの帰属意識を高めるということもありまして、ええ、4月にええ領域横断で一斉の新入生歓迎会をしたいねって話がずっと持ち上がってるんですけれども、なかなかできてないんですが、あのコロナの時にオンラインでやったきりなんですけれども、これをまああのぜひやりたいということで、計上しています。

それからですね。学内保育園開所記念寄付金っていうのはことあの今回に関して10万円計上してるんですが、お手元のこの小さな冊子ですね。えっと保育所事業基金という右下に書いてますけれども、あのちょっとこのえっとこれだけですとどんな保育所ができたのかというのがわからないのですが、あ、これかなり古いあれですね。あのすごく素敵なえっと咲いてく保育園っていうところが10月に開所しました。こちらの利用者がかなり実は教職員ではなくて、ナイスの学生が多いということで、しかも箱はNAISTが用意したんだけど、中は民間が運営するんだけど、箱のメンテナンス費がですね。よくありがちな話で全然その大学っていう

ところはそういうお金がないので、40年で400万ぐらい。例えばエアコンが壊れたとか。ええ、壁がボロボロだとかが出てくるということであのまあ、そういうその維持費をもう年間十万平均ぐらいあのサポートいただけないかっていう話で、実は学長レベルでいただきました。なんですけど、えっとまあ、ちょっと性格上ですね、修了生だけが使うものではないってことであったり。でやっぱりその他の施設もそうですけど、大学の施設は大学でやってくださいというところもありますので、ええ、我々同窓会として毎年何がしかの額をええずっと寄付し続けるかどうかっていうのは、ちょっとどうかなというご意見もあるということで、少なくとも来年に関しては開所記念ということで10万円寄付させていただくことがこちらの案になっています。来年以降に関しては、利用状況を見ながら継続審議、毎年審議すればいいかなというのが今のところの私たちの考えになっています。

はい、で、ええ、その次ですね。オンライン会議ライセンスzoomのライセンスですね。スポットで1万円、はい。その他振込手数料等々となってますしてええ534万円の収入に対してええ計画でもですね。半額以下ぐらいしか使わない、ああ半額ええと半額強ぐらいですねえっとで半額弱の予備費が残るという形になっています。

えっとこちらですね。最終的にあの予算のあの承認はオンライン審議を経て、あ、本日の総会で決まるのではなくて、この後、あの始まります。オンライン審議で確定する、ええつもりなんですけれども、ええ、この本日のこの総会の時点で、参加者の皆様からの、何かこの予算案に関しましてご意見ありますでしょうか。

高橋 10:02

積み上がってる今最終的な口座の金額って、どこかに書いてあるんですけど。

岡村 10:23

資料2の一番下です。

高橋 10:33

これ、なんか上限ってないんですか。

清川 10:35

ああ、かなり溜まってる。え、そうですね。ゆうちょはあります。ゆうちょは1000万超えると怒られて。えっと毎月のようにハガキが来てるんですけど、南都銀行は多分まだ大丈夫、上限はあるのかもしれないんですが、そこまで達しているわけではない。

秋貞 10:58

1000万円を超える部分は保証できませんってただけじゃないですか。

清川 10:59

まあ破産したらすいませんがあると思うんですけど、はい、あの置いとく分には怒られるわけではないってことです。大丈夫です。

高橋 11:07

その置いてるのはいわゆる普通預金ですか、定期預金とかじゃなくて。

清川 11:12

えっとですね。えっと

秋貞 11:16

そうですね、普通預金と認識してます。

清川 11:17

えっと基本普通預金では。

高橋 11:20

いつでも出せる。

清川 11:21

出せませす。

高橋 11:22

運用とかはしてない。

清川 11:25

いや、だから全体としてはあのなんだろう？毎年結構な額がたまっていったる状況なので、まあ以前に比べると改善はしていて、以前は本当にその何もサービスしないから一円も取らないっていう時期があって。どういうこっちゃって。あの収入7円とか利子しかないみたいなだったんですけども、それに比べるとそれ200万300万近くあの活動はしているんですけども、あのまあ同窓会のね修了生の方々、現役生の方々にどんな還元をして、それがこう皆さんができるだけこう納得いっていただけるような支出の仕方ってなんだろうっていうので、と考えているんですけど、あの支出しなすぎっていうのも、それはそれで還元しないのもね。良くないと個人的には思っているのであのまあ大事に使わないといけないんだけど、まあ、でもみんなが納得するものに関しては積極的には思ってるんですよ。なんかこんなことしたらとか、もしご意見があったらぜひいただきたいです。

はい、あのちょっとえっと押しはいる。えっとですね。11時なんで5分まああの最後5分十分、あのディスカッションの時間を取りたいので、パパッと行って、どこでもまた好きな時に戻っていただいてっていう形で説明を続けさせていただきます。はい。はいということで、この資料四ですねえっと今ようやく一番の話が終わったんですね。二番会員増強の施策についてということなんですが、会員増強ってのはすなわちえっと外から会員を増やすじゃなくて、中から掘り起こすということで連絡が取れない方とかですね、えっと、その先ほどのそのウェブのあの会員サイトPalSynelに登録されている方がまだ4000名弱という形で少ないんですよ。まあ、その1万、のべ1万人ぐらいいるんですけど、まあ、おそらくまあ半分弱、4割ぐらいになっていて、えっと、まあ登録してるんだけど、それっきりみたいな方もいらっしゃいますし、そもそも連絡がつかない方がかなり多い、どうしたらいいかなって話がありまして。

で、やっぱりその研究室のつながりがやっぱりあの強いので、えっとかつての教授の先生であるとか。まあ、引退された方も含めてですね。その名簿を掘り起こしただいて。そこからトップダウンで入会いただけませんか？という案内をしていただくと。であの当然強制はできませんし、任意の形で、あ、だったら、という形で思った方がポツポツと入っていただくという形で、こう樹状、ツリー状にですね、案内を投げるっていう作戦を物質で一部展開いただいているんですね。であのそういう作戦がこう全領域でうまく働くのかっていうのをちょっとテストしているわけですけども。えっと、そちらの方がまあ、あのそこそこうまくいったけれども、やっぱり難しいねみたいなどころでちょっと最終報告いただけてないんで、えっと、それとも確認しないといけないんですが、マンパワーの問題もありますし、それをなんとかやりたいというところではあります。はい、それが二番の趣旨ですね。

じゃあその三番新しい施策の提案についてというところで、えっと、下から順番に古いものからですね上の方は未達成になってるんですが、まあ、特に未達成のところですね事務員雇用の話であったり。ええ、それからここには書いてないですかね。あの最近、そのどんなことをやってほしいですかっていうのがあって、あの会報ですね。なんかやっぱり定期的に年一

回ぐらい発行してほしいとかいうご意見を結構いただいた記憶がありまして。でえそれをやるためには、まあそれなりにやっぱりマンパワーがいるということですね。まあ、あのまあ、事務員を雇用するだけの今予算はあるので、ええ、まあどうやってやるかということであのくすぶっては消え、うまくいきかけては、あのうまくなんかいかなくなってみたいなものを繰り返してるんですけども、ええ、なんとかしたいなっていうのはずっと思っているということですね。

はい、あとあのえっと一番上の未達成ですが、役員の交代のルールがはっきりしてなくて。いつまでもずるずるあのところがあって、えっと、それがあの今一つだと思っているので、その役員のなんか選挙とかですね。まあ、きっちりそういうルールを設けるとかであましくないといけないなど。そういうのをやってから、はい、その選挙によって次の方がこうきちんと選ばれたことを持って、清川はニコニコと退任したいなと思ってるんですけども、あのはいそれはなんとかやりたいと。はい。「あとは知らない」とはさすがに言いたくないのでという状況です、はい。それからえっと、まあ、このあたりですね。あの時間が余ったら、あの自由にご議論いただければいいかなと思います。で、その他に関しては今年は特に設けていません。

続きまして次の資料五ですね。同窓会のこの活動していくにあたりまして、多くの方々にご協力いただいて役員として入っていただいています。会長はじめ副会長二名で、その後理事ですね。理事はあのえっと若干名と書いてましたっけね、あの人数が規定されてませんで、えっと今まではあの各領域から一・二名ということだったんですが、えっとまあ、もう一名ずつ増やしてはどうかという形で、今年はその各領域から一名ずつお三方、赤字のところですね、えっと新規に入っていただくことを提案しています。先ほどの理事会では反対意見がなかったという状況です。でえっとまずですねえっと高橋さんに関しましては、はい、あの来ていただけてますので自己紹介いただければ。

高橋 16:51

高橋です。2003年入学で大門研に所属してました。今は、住友重機械という会社におりまして、あのパセットから住友重機械に行って、そこで技術研究所というところで、医療機器とか半導体装置の開発してます。あとは量子研、量子化学研究機構の受け入れ研究員をやっていて、それは外部の受け入れ研究員をやっていて、もう一つは、あの日本科学振興協会、通称JAASでアカデミアと社会連携のそのボランティアとかの役職をいろいろやってます。よろしくお願ひします。

清川 17:37

よろしくお願ひします。ありがとうございます、はい。アカデミアとインダストリーを両方を分かっていらっしゃる方です。はい、あの昨年もあの同窓会講演会の方に来ていただいて、はい、いろいろ面白いお話を伺ったところでした。はい、ありがとうございます。

あと藤原賢二さんちょっとオンラインでいらっしゃったりしますか？ちょっとお声がけをしておくべきでしたね。えっとあの藤原さんはですねえっとちょっと読み上げさせていただきますけど、2010年のえっと情報のえっと修士課程入学です。現在は奈良女子大学の講師でいらっしゃるです。ええ、講師でしたっけ？ええでいらっしゃる、はい。でえっとええご本人からのメッセージですけれども、あの本務の傍らにできる範囲であれば、あのええお手伝いさせていただきますというあの声をいただいている、えっとはいあの同窓会ですね、こちらのえっとイベントの主催などもしていただいている、関わりのある方ということで是非お願いしたいということになっています。はい、なんか藤原さんに関してえっと新井先生はご存知ですか？はい。あのいろんな方、あのどうしてもこうお友達とか同年代とか顔見知りとか、こうどうしても固まりやすいんですよ。それは別にこうクローズドにしたいわけじゃなくて、そこしか声がかけれない、かけにくい、そうなっちゃうんだなっていうのは、あの中にいるとわかるんですけど、あのまあ全体的にいろんな年代の方、いろんなあのバックグラウンドの方に入っていた方がいいと思うので。むしろあのどんな人ですかね？みたいな、はい、もちろんあのあの藤原さんは非常にえっと積極的にやっていただけという意見表明いただいているので、ぜひお迎えしたいと考えています。

はい、それからえっと鳥山さんですね。ええ、鳥山さんご紹介いただける方いらっしゃいますか。

岡村 19:29

いないんじゃないですかね。

清川 19:33

いらっしゃらないはいえっとで鳥山さんはですね、現在はえっと阪大の薬学部の特任准教授でいらっしゃるということで、えっと同じく鳥山さんもあのこちらのえっと制度を利用して同窓会のイベントを実際に主催されたりもしているので、いろいろ活動に関しては関わって中身もわかっている方ということで、ええお迎えしたいということです。はいでえっとまあふと見渡すとそうですね。あの女性のあの役員の方は少ないので、そういう意味でもはいぜひ。あのお迎えしたいかなと考えています。はいまずあの役員に関してはですねえっと。まあ、あのええ現役の役員が推薦して総会によって承認となっておりますのであの繰り返しですが、オンライン審議でええ確定しますけれども、この場でご意見ありますでしょうか。大丈夫ですかね？はい、あんまり多いとね。あの逆にうまくいきにくいのかもかもしれませんが、はいそこその人数がいることによって、例えば1/3ずつ交替していくとかするとスムーズかなと思います。はい。ええということはこの場では反対意見なかったということでもよろしく願います。ありがとうございます。

ええ、それでですね。えっと続きまして、えっと順序が逆になったかもしれないんですが、あのまあ審議事項の方があの時間がなくなった場合に先にやった方がいいということで報告事項は後回しにしておいたけれども、えっと資料六の方でちょっと議題にはつきり書かれてない

んですが、えっと資料六の方を使いまして、あの今年度の活動の報告をさせていただきます。はいでえっとこちらの方がですね現在のええパルサインですね、あの会員管理のウェブサイトの登録者数がええ11月5日現在で3869名という形になっています。であの過去数年の人数の推移を見ていただくと、あの一気にちょっと声掛けをして、あのまあ新生の数以上に増えた部分がありましたし、ええと最近二年ほどはだいたいその毎年のええ学生数ぐらい増えているという形になってます。なので、もう少し積極的に掘り起こせばですね、あの延べ修了者数は1万一千名超えてますので、ええ、実数としては修士とまああのドクターであのダブルカウントがありますから、多分実数としても8000、9000ぐらいにいる。どのぐらいですかわかります。

高橋 21:57

あのわからないですね。

清川 21:58

あの8000、9000ぐらいだろうと思うので、やっぱり半分弱ぐらいだろうと思っています。はいまだまだこういう掘り起こしをしたいと思っているので、ええまあご協力くださいということです。それからえっと二番ですね。同窓会活動のまあ周知ええ等っていうことでは、あの学位記授与式とかですね、えっと、まあ、オリエンテーション、学期が始まるごとに挨拶させていただいてます。

それからええまあ、会費の納付状況なんですが、えっとですね。こちらもええ。令和六年度新生への会員費納付率はというところで約59.2%。これはあの過去最高です。えっと括弧書きのところに過去数年の経緯があのでええ推移が載ってますけれども、毎年増えているのは非常にいい傾向かなと。あのええ、数年前のことを思い出しますと6割を目指すを書いてたので、ええ、まあだいたいこれぐらいかなと。まあ8割、9割、まあ100%なかなかいかないと思いますし、ええ、もちろんそのよりあのまあしっかりお支払いいただいて、ええ、しっかり還元サービスを展開するってのは大事なんですけど、まあ6割はもともと目指していた数値なので、ええ、なかなか、ええ、まあ順調かなというところなんです。なのであのまあ、しっかりお支払いいただいて、同窓会を理解していただいて。まあ逆に言うと、そのええまあ恩恵をちゃんと期待している方々が増えているはずなので、しっかり頑張らないといけないというところなんです。

ええ、四番同窓会集会の報告ですが、6件ですかね、イベントパーティーの支援をしています。ええ、規模を考えると、あの6件は非常に少ないと考えていて、これ、あの一の方だけがあの2万円の会費の恩恵を受けていて、他の方々は払っただけという形になっているということなので。これよく考えていただくと10回まではペイします。10回、11回以上あの2000円もらってマイナスという形なので、えっといずれ破綻するはずなんです、あの非常に活発になれば。なのでもうあの赤字覚悟でどんどん活発にあの応援している、開催をあのエンカレジしている状況なので。ええ、まだまだ先ほど、予算状況の収入等も若干余裕があると思いますので、皆さんあのお知り合いの方とかですね。まあ、あのご自身の出身の研究室のパー



ティーなんかも、あの考えていただければいいかなと思います。はいえっと条件がありまして、括弧書きにありますので、ええ四角の中を見てください。

それから最後五番ですね。はい、あのキャリア支援ええとの連携ということで、キャリア支援の方は非常にあの活発にですね。あのまあ、就職支援を兼ねたOBOGの講演会であったり、交流会だったりっていうのを開催しています。でえっと今年のええとまあ、ちょっと古いのも載ってますかね、えっとあ、違いますね、昨年2023年の11月から、ええ、昨年の総会からの一年で、これだけ4回やりましたよということで。特にですね。昨日ええ清川も参加したんですが、岡村理事も参加しましたけれども、えっと別紙十のところに載ってますが、えっと同窓会の講演会ええかつ交流会っていうのが開催されました。でえっと、まず第一部がですねえっと。まあ、日本人3人、留学生3人、6人の方から、会社こんなですよ。こんな仕事してますよって、現役の頃はこんな研究してましたよって、まあ、あの仕事を見つけるのにこんなことしましたよ、みたいな経験さんを話して、ええ、皆さん非常に参考になったというところですね。これ毎年やってるもので、ええ人数は毎年毎回三名だったのが六名に増えてます。ええ、それから後半ですね。これ、新たなあのまあ、最近新しい取り組みなんですけど、えっと第二部の方ではあのホールでですね、非常に広々まあ研修ホールであのポスターセッション形式でえっと15社18名の修了者の方が来られて、まあ、会社説明会兼ねながら、そのまあ真ん中の広いスペースのところにもお寿司とか並んで、ええ、まあ、非常にリラックスした雰囲気であのまあ就職活動みたいなことしながら、あのまあなんですかねえっと情報交換していただくという場がありました。えっと、ちょっとあの酸素不足になるんじゃないかぐらい、あの非常に混雑していて非常に賑わっていて、あの15カ所のポスターももう2時間ずっと誰かと喋っているという形であの非常に活発でしたね。はい。私最後の十分20分ぐらいしたら抜けちゃったんですけども、ええ、一応その15社の方全員お話をさせていただきました。はいなので、まあこういう、はい。

高橋 26:31

運営はアカリクに依頼したんですよ。

清川 26:34

私アカリクさんがどう絡んでるかわかってなくて。わかります？ああはい。

筒井 26:41

キャリア支援と協定を結んでいます。その関係でお手伝いをお願いしてます。

清川 26:49

どの部分を外注されているんですか。

筒井 26:51

懇親会のところだと思います。もちろん運営のところはキャリア支援のところになって、図書館の3階でやったんですけども、それ以外の懇親会は研修ホールで昨日させてもらいました。ここはちょっとお手伝いしてもらおうとか協賛していただいて、あと20社ぐらい企業がおられてパネルで説明していただいたんで、まあ、その辺アカリクさんに呼んでいただいて、学生の皆さんにその企業との交流をお願いしたんだと思います。

アカリクというのは、ドクターさん向けの、企業なんですけど、学生さん、皆さん、こうやって就職の関係も含めながらっていうところで。協定を結んでいるのが一番で。うちの大学のために、その支援団体のところに事務所一個構えていただいたんで、特に近くにいらっやって、いろいろお願いしてるっていうのがあって。

高橋 27:46

アカリクさんがその事務所を構えてるんですか。

筒井 27:48

はい。あの支援財団に場所を借りてそこに。

清川 27:54

なるほど。

筒井 27:55

だからターゲットはうちの大学だと思うんですけど。まず一つ目を東京本社の話をうちの大学の近くということで、支援財団に行って。今、広島大学でも作ろうとしていろいろ動いておられるみたい。そんな関係で、いろいろお世話になってるっていうのが今大きなところ。

高橋 28:21

この交流会に参加された企業さんは全然うちのOBとかそういうの関係なく？

筒井 28:25

そうですね。うちでやってもらったのは、うちのOBの方に講演を、交流会参加企業についてはアカリクさんをお願いを。キャリア支援がこっつというところを示したかもわからないんですけども、アカリクさんをお願いしてるとは思います。

清川 28:44

あの非常にいい試みかなと思いました、はい。ええということであの我々からすると、基本、最初の一部で挨拶したり、二部の方で飲食費をサポートするぐらいのことしかしてはいないんですが、あの同窓会の活動としても魅力的だということで、ご報告でした。

高橋 29:02

これ時期的にこの11月にやられたんですかね？このアカリクさんとのこれは。あ、昨日ですか？

清川 29:12

ああそう、昨日です。だから就活始まる前からちょうどいいみたいですね。この時期っていうのはそうですね。本格的に就活が始まる前っていうぐらいを考えていらっしゃるのかなと思いますね。

筒井 29:19

本当は昨日その出ていただいたOBの方にもここに出ていただきかけたんですが、まあ、ちょっと予定が皆さんあるということで、今回は来てもらえなかったということです。

清川 29:30

はい。ということでした。はいええ。最後資料七は沿革ですね。あの何年度、こんなふうになんたん発展してきましたという資料がついています、はい、ということでええだいたい十分ぐらい残っている。と予定通りなんですが、いかがでしょう。なんでも話していただきたいと思うんですが。

高橋 29:52

あ、えと資料4の2番のところ、同窓会から修了生への連絡することの承諾をもらっているのはあるんですけども、あのここで、ええと修了生へ誰がこう連絡するんですか？その大学の先生が連絡するのか、OB会が連絡するのか、どちらになりますかね？

清川 30:16

あ、あのね、えっとちょっとここははい、あの実態の前の計画段階の文言のままかもしれないですが、えっとえっと、要はえっと名簿を誰が使っていいかって話？

高橋 30:26

そうです。そうです。

清川 30:28

はい、でえっと結局ね、あの研究室で集めていた研究室の名簿は当然研究室のものであって、それを横流ししてはいけないので、その名簿を直接使って我々がメールをダイレクトに投げるのはNGなんですね。でなので、まず第一弾として研究室の中で連絡をいただいて、同窓会からの直接連絡が来てもいいですか？はい。って答えた方だけのメールをいただいて。その名簿のリストに対して、我々は投げるとかいうことを考えてました。なんですけど、結局二段階ではめんどくさいってことだったと思うんですけど、記憶違いかな。どうしたかという、案内を直接研究室側にお渡しをして、それを直接開いてもうリンクなりを開いて申し込めるという形にして、二段階にしなかったんじゃないですかね、はい。

という形で物質の方では、それなりに掘り起こせた。まあ限界も見えたけど、それなりに行けたというのは、はい。

高橋 31:32

わかりました。いや、ちょっとあのまあ第三者提供はできないのもそうなんで、まあどうされたのかなと。

清川 31:39

あのそれを言い出すとそうなんですよね。あのもうもとよりそのえっとそこキャリア支援とか修了後は、このメールアドレスみたいの全部集めてるので、それを使ったら同窓会は直接、あ

のまだ参加していないじゃないか入会しろ、みたいなメールを投げれなくはないんですけど、まあ同窓会は大学とは独立しているのであのそれはできないというやらないというスタンスですね。大学によってはもう同窓会がもうはっきりと大学組織の中にあるところもあって、で、そういうところはあの名簿はもうあの何に使ってもいい、同窓会のものに使っていいっていうふうにかう初めから明言している場合もあるんですけど、我々は別組織としてやっているの、そこは一応クリアにやろうと。

高橋 32:23

仮に研究室で取得する時に同窓会から連絡が来るかもしれないっていうことを同意してもらってるような段階で取得したらダイレクトいけると思うんですね。そこはいけると思うんですけどね。

清川 32:38

だからえっと以前、あれどうなったのかな？えっとキャリア支援の方とかでも、これを同窓会のえっと名簿、えっとからの案内等に使っていいですか？みたいなこのオプトアウトみたいな、これどういう形でやりましょうかって話をした。どうなりましたっけ？

筒井 33:00

まだそのままです。

清川 33:02

だから案としては出てるんですよ。だからキャリア支援が3月修了出ていく直前にええあの修了決まった子らに、あのもう次のメールアドレスもだいたい決まるとかあのするんですけど、その時にそのメールアドレスを報告をさせるという報告書にえっと同窓会からの連絡、これでオッケーですチェックあのクリックしないと外れないという形が取れたらな、取れたらなあ、のままだと思えます。だからそれももう一つ妥当な作戦かなと。

高橋 33:34

わかりました。はい。まあ検討されてたってことですね、

清川 33:49

はいはいはい。いいや。なんか結構、名簿って結構ね、ややこしいですね。

高橋 33:54

同窓会の名簿も個人データ扱いらしいですからね。

清川 34:00

もちろん、もちろん。

高橋 34:01

個人情報保護法の対象。

清川 34:03

完全にそうですね、はい、こういうはい、どうぞはいぜひ。

小田島 34:13

あのあの私が単に気づいてなかっただけとかだったら申し訳ないんですけど、この最後に話されたその各種イベントって、どこ経由なんですかね？このホームカミングデーの連絡と同じアドレスになんか連絡って私、この辺気づかなかったんで、昨日のイベントとかもし気づいてたら行きたかったなっていう。

清川 34:32

ああなるほど、えっと流してないかもしれないですね。あの基本、これに関してやっぱ学内イベント現役の学生向けでえっと修了生が誰でも彼でもって形じゃないんで。開催報告でちょっとその流してもいいのかもしれないですね。まあそう。

筒井 34:56

そんな20人程度もない。あの6人の方にはお願いしてるんですけども。既存の学生に対してお話を聞きたいというところがあるので、多分同窓会にはそこは流してないかもしれない。

高橋 35:10

なんか同窓生講演会って書いてあったかな。同窓生が送ってるのかな？

清川 35:14

はいはいはい。だからそのままにその総会のオンライン審議だったり、まあ、以前あったの例えば、ああ、どっかの研究室のあのえっと寄付をあの募るとかですね、そういうのは全員に流すんですけど、全員が参加なんなら参加していいですよ。1万人来ていいですよっていうなかなか開催できないんですし、そういう開催案内は事前に流してないんですよ。なんだけど、やっぱりあのアウトリーチが足りないというまあ、こんな活動してますよ、活発に頑張ってますよっていうのは、もうちょっとウェブをわざわざつつきに来る人は稀なので、どうしてもこんな活動してますよっていうのは。

筒井 35:52

情報として流させていただいて、あとは今後入れていくみたいな話と。

清川 35:57

はいなんかおねだりばかりされるような印象もあるかもしれないので、まあ活発にやってみようってのを投げるべきですね。

高橋 36:05

この交流会は主体は支援キャリア支援から始まったんですか？それとも同窓会？キャリア支援から話があって同窓会にはどういう絡みでこう入ってくださってという話になった？

清川 36:19

あ、なのでえっと、そういう意味ではあの例えばえっと人選、あの推薦してもらえませんか？とか、どういう方が講師にふさわしいとか、あるいは金銭的なサポートが、はいあっていう話が出てたんですけど、今のところはもうそこも含めてキャリア支援が探してきてますね。うん、もう少し積極的に絡んでもいいのかもしれないです。

高橋 36:39

そうですね。

清川 36:46

うん、すみません。はい、どうぞちょっとどうぞ。

川上 36:46

その同窓会の分にちょっとつながるんですけど、ニュースレターの発行を生成AIでして、そこに同窓会の名簿に登録してくださいとか、あの例えばパルサインに登録したらどんな特典がありますよとかを書いた上で生成AIでニュースレターを作成して飛ばしたら経費もそこまでかからないし良いと思ったんですけど、どうでしょうか？

清川 37:34

ネットSNSとかそういう話？

秋貞 37:36

生成AIを利用することのご提案ですね。生成AIを利用して文書の作成にかかる労力を最低限にすれば可能かもしれません。

川上 37:41

あとデザインとかもなんか自動的に作ってくれる場合があって、まあ、その時に発行の時に紙でして、そこに同窓会に登録したらこんな特典がありますよとか、パルサインに登録したらこの特典がありますよとかを書いて何度も発行しておけば、それだけ認知されて多分入りやすくなると思うんですよね。

秋貞 38:24

ご意見ありがとうございます。紙のニュースレターのご提案とのことですが、同窓会側としてはニュースレターは紙の認識でしたか？それともPDFでしたか？



清川 38:30

PDFのイメージとは思ってたんですが、はいでもやっぱりこう一つのやっぱ塊として第何号みたいになった方がやっぱりいいのかな？紙はね、ちょっと全然全く考えてなくて。PDFをあのウェブに載せて、そのリンクをメールであの送るとかなんか、そういうことを考えてたんですね。だからちょっと簡単なブログベースみたいな。

秋貞 38:50

でもそうすると、逆に現在アクセスできる人にだけ目に触れる形になるので、新規の方には目に触れないですね。

清川 38:55

なるほど。

高橋 38:57

逆になんか、会報が出た時にはメールで一斉に知らせて、でリンク先はブログのノートとか。

清川 39:03

うんなんか、できるだけこうなんか作る手間を省いてなんか写真。

秋貞 39:11

文章を生成AIとかすごく使いますのでその労力の削減には貢献できると思いますが、まずは企画をどうするかを考えるとところから始めないといけませんね。

清川 39:20

そうですね、あとあのよくいただてるご意見は多分掲示板。もうどなたにも書き込める掲示板を作ったらいいんじゃないかみたいな話があって、えっと数年前はスラックがね、はい候補になってたんですけど、有料ライセンスになると三か月でメッセージが消えてありますね。だからうん困ったなって言って、ディスコードはちょっとなんかゲーマー向きだし、みたいなみた

いな話になってるんですけど、まあ、でもやっぱりああいうのがあるとどなたでも発言しやすいし、何年修了とかね作ると、まあ、それぞれ活動できたりとかできるので、まああのどうしてもこうスター型にするの良くないと思うんですよね。なんかそれぞれがこう発信できてやるのが一番盛り上がると思うので。

高橋 39:59

なんかこうフェイスブックとか？でもいいかもしれないけど

清川 40:00

フェイスブックとかね割とあの若い人見ないですよ、もう見ないですね。

小田島 40:06

今はディスコードはなんかゲーマーだけじゃなくて、いろんなコミュニティとか使われて。

清川 40:10

ます今ね、増えてますよね？もうディスコードとかソリューションがないからっていうかはい、あの我々も仕事でも使ってますけど。

秋貞 40:17

先ほどおっしゃっていただいた、会員システムに登録しっぱなしでその後の対応があまりできていないというがあるので、定期的に情報を発信することで同窓会の存在を思い返してくれるというのは有効だと思います。

清川 40:27

どなたか議事としていただいていますか？

清川 40:38

あはいはい。それをねはいあのはいあの去年、一昨年ぐらいからですかね？はい。多分やっていますはい。あの英語版も出さないといけないんで、そのあたりもあのツール使ってやっています。

清川 40:53

ああ、なるほど。最近結構。

秋貞 40:57

ありましたね、英語版で。

新井 40:58

英語の字幕もこれオプションで。

秋貞 41:00

最近のAIは結構頭いいです。要約までしてくれますよね。

清川 41:05

ズームのあのリアルタイム翻訳はまだですけど。あのMicrosoftのパワーポイントのやつをめちゃめちゃ精度いいですねうん。はい、あのちょっと毎年ねこの総会の時に、ああ、それもいいアイデアですよ、で一年がたつのが続いていますね。ちょっとマンパワーの問題もあるんですが、はい本当にこう進めていきたいと思います。ご協力よろしく願いいたします。はいはいはい、どうぞぜひ。

大宮 41:31

えいや、あのSNSの話出た時にうん、NAISTに来るような学生はツイッターやフェイスブック、若い人らもやってるような感じがします。

清川 41:43

しっかりやってる。

杉本 41:45

ツイッターは結構やっていますよね。

高橋 41:45

ああ、ツイッターの方ですかね。

杉本 41:48

ツイッターはかなりやっているといますよ。

清川 41:49

ツイッターもありかもしれないですね。広報には使えますかね？ただでもそのバラバラになっちゃうんですよね。

秋貞 41:55

ちょっとそうですね。偏りなくっていうと。

清川 41:58

書き換えにくかったり、毎回とゲッターも変だしみたいな。はいはいまあなんであのマルチにそれぞれの特性を生かして使っていく方がいいのかな？まあ、ちょっとやってね。改善したいと思っています。ちょっとあの意見集約させていただいて、はいでは11時になりましたので、えっと続きましてええ学長・理事・監事と修了生との意見交換会の方を開催させていただきます。

秋貞 42:33

NAISTのバイオサイエンス領域の公式フェイスブックを定期的に関覧していますけど、いいねを入れているのは私を含めて十数人ぐらいですね。

